

企業 Companies Interview インタビュー



苫小牧工水 北海道企業局の工業用水を使っています。

合同酒精株式会社 苫小牧工場 様

合同酒精株式会社様は、1924年に北海道内の焼酎製造会社4社が合併して設立された総合酒類メーカーです。2003年に純粋持株会社制を導入し、オエノンホールディングス株式会社に商号を変更、新たに子会社として合同酒精株式会社を設立し、以来、グループの1社として酒類・食品、酵素・医薬品の製造販売を行っています。苫小牧工場は2009年に操業を開始、年間45,000kLのアルコール製造が可能な大規模な酒類・工業用アルコール工場で、グループのアルコール事業の基幹工場となっています。



工場長
加納 尚也様

Q 苫小牧工場の特徴についてご紹介下さい。

A 苫小牧市と厚真町の境界線上に立地しています。アルコールを製造する蒸留プラントやユーティリティー設備は苫小牧市側、アルコールを貯蔵するタンクは厚真町側というレイアウトになっています。原料の粗留アルコールを海外から受け入れ、蒸留プラントで精製し、出荷する設備で構成されています。一番の特徴は、工場から100m程離れた岸壁に隣接する専用の棧橋に停泊するタンカーから、パイプラインを介して粗留アルコールを直接受け入れる「ダイレクトオンパース」という体制を導入しているところです。蒸留プラントには吸収式ヒートポンプという省エネ設備を採用しており、約20%のボイラ用燃料を削減する効果があります。プラントの運転管理はDCSというシステムで一括制御しているため、少人数でも効率的かつ的確に行うことができます。また、遠隔でDCSを監視・操作できるリモート監視体制を敷いているので、緊急時には外部からも対応でき、少人数体制による工場運営と生産性の維持・向上を実現しています。製造した製品アルコールは、タンクローリーやISOコンテナ積載車両で北海道内に輸送し、北海道外へは専用のタンカーに積載し海上輸送しています。

Q 工業用水はどのような用途で使われていますか。また、工業用水を使うメリットを教えてください。

A 工業用水は、主に熱交換器用の冷却水として使用しています。熱交換器を通過する際に温められた工業用水は総合排水槽を経由して排水されますが、その際、水温調整の目的で工業用水を使っています。また、泡消火設備用の消火用水として防火用水槽に工業用水を貯めています。生産量や季節により変動しますが、苫小牧工場では1日約8,000㎡前後の工業用水を使用しており、全てを上水道で賅うことは数量的にも費用的にも非現実的です。工業用水を使うことのメリットは非常に大きいといえます。

Q 苫小牧工場がある苫小牧東部地域の印象や魅力について、ご紹介ください。

A 千歳空港や苫小牧港からも近く、交通アクセスの非常に便利な立地にあります。苫小牧東部地域周辺ではハスカップ狩りやキャンプ、釣りなどが楽しめ、レジャースポットが充実しているところにも魅力を感じます。また、CO₂の回収施設や再生可能エネルギー由来の電源開発、余剰再生可能エネルギーによる水素製造等、様々な取組みが実施・検討されています。今後、一層のカーボンニュートラルに向けた技術開発が見込まれ、脱炭素化に向けた取組みの更なる展開が期待されています。

Q 最後に、オエノングループでは「自然の恵みを活かし、バイオ技術をベースに、人々に食の楽しさと健やかな暮らしを提供します。」を企業理念となさっていますが、これからのバイオ技術の可能性について教えてください。

A 長年に渡り、酒類製造で培ったバイオテクノロジー技術をベースに、販売用アルコール、焼酎やチューハイ等の製造・販売をおこなう「酒類事業」、酵素や診断薬の製造・販売、さまざまな微生物の発酵受託を手掛ける「酵素医薬品事業」を展開しており、お客様に食の楽しさと健やかな暮らしを提供することを第一とし、特長ある製品やサービスの提供を続けていきます。

